



# 社会科学研究部報

令和4年 7月 26日

浜松市教育研究会 社会科学研究部

## 令和4年度 第1回教材研究部研修会

6月21日(火)に、浜松市立可美小学校にて開催されました。

本年度の教材研究部では、新たにデジタルアーカイブの教材化に取り組みます。講師の大井将生先生から伺った、デジタルアーカイブの活用方法と、今後の教材研究部の活動についてお知らせします。

### 1 デジタルアーカイブの活用方法

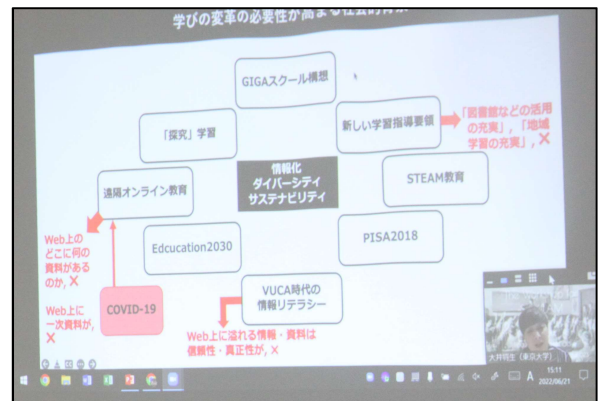
東京大学大学院 学際情報学府 TRC-ADEAC 特任研究員 大井将生 先生

デジタルアーカイブ資料とは、各地の図書館・博物館・文書館等が収集・保存・公開しているデジタル資料である。そこには、多様で真正性の高い資料があるだけでなく、資料を読み解き、身近に感じさせるための機能といった、デジタルならではの魅力も備わっている。

現代の教育において、デジタルアーカイブは、様々な課題を解決する、重要な基盤となるものとなりえるのである。国内外の調査によると、日本の児童生徒は多様な資料の中から問題を発見・把握する力や、読解力(情報を探し出し、理解し、熟考する力)が低いとされている。一方で学校教育には、GIGAスクール構想や「探求」学習の推進等で、従来とは異なる学び方を求められている。こうした、課題に対応するためには、Web上で「多様な資料」を活用できる学習環境の整備が求められている。そこには、このデジタルアーカイブが非常に適していると言えるだろう。

現在運営されている、デジタルアーカイブの代表格として、「ジャパンサーチ」というものがある。国が分野横断統合ポータルとして構築したもので、多くの機関が連携しており、約2,500万件のデータがある。多様な資料を横断的に検索でき、権利関係も整備されていることもよい点である。しかし、資料が多すぎたり、地域ごとの資料検索がしづらかったりするというデメリットもある。地域の学習で活用する場合は、各地域の自治体で作成しているデジタルアーカイブを活用するとよい場合が多い。地域アーカイブと「ジャパンサーチ」のような統合アーカイブを組み合わせることで、教材・授業のデザインの幅を広げることができる。

本研修会の取り組みは、全国的に見ても先進的なものであり、先生方も楽しみながら取り組んでほしい。



## 2 教材研究部での取り組み

大井先生の話を受け、教材研究部員でデジタルアーカイブを活用した教材作りに取り掛かった。各グループでタブレット端末を操作しながら、どの学年の単元で、どのデジタル資料が使えるかを相談し、アーカイブ内を探した。昭和5年の浜松駅の写真を3年生の市のうつりかわりの単元で使えるだと考えるグループや、6年生の歴史で江戸時代を扱う際に、屏風や当時の地図の資料が使えるか考えて集めるグループなど、どの班も主体的に創造的に活動に取り組む姿が見られた。

第1回の研究会では、各グループでの単元で、どの資料を使うかの見通しをもって終了した。秋に開催予定の第2回の研究会までには、班ごとに資料の作成を行う。今回作成した資料を他のグループと交流し合い、更に磨きをかけていく。作成した教材は、本年度中に浜松市内の各小学校で使用できるように準備をしていく。

(文責：初生小学校 大木 健太郎)

